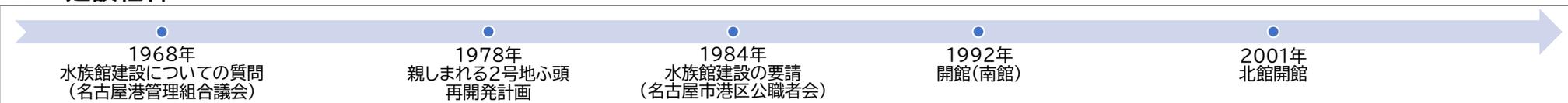


名古屋港水族館の機能向上に向けた 基本構想（概要版）

令和7年3月
名古屋港管理組合

(第1章) 名古屋港水族館の現状

1. 建設経緯



2. 施設の概要、特徴

(1) 設置目的

- 親まれる港づくり
- 社会教育/レクリエーション
- 海洋からの恩恵・海洋への関心

(4) 展示テーマ



(2) 名古屋港水族館の立地

- ・名古屋港ガーデンふ頭
- ・名古屋市営地下鉄名古屋港駅から徒歩約5分
- ・周辺にはポートビル、名古屋海洋博物館、南極観測船ふじなどの観光施設

(5) 施設の特徴

- ・生息環境を可能な限り再現
- ・鯨類の行動や能力を紹介
- ・マイワシのトルネード、愛くるしいペンギンの姿
- ・生物飼育を支える多くの設備
- ・2019(令和元)年度に3年連続200万人超
- ・個人客が約90%、インバウンドが約20%

(3) 施設規模

- ・敷地面積 約56,000㎡
- ・延床面積 約41,800㎡
- ・総水量 約27,000トン **国内最大**
メインプール:約13,400トン **国内最大**
- ・展示生物数 南館:約500種、約50,000点
北館:4種、20頭
- ・運営者 (公財)名古屋みなと振興財団(指定管理者)

3. 経営状況

(1) 維持補修費用

日常の維持補修は指定管理者が行う。それを超える補修は名古屋港管理組合が行い、補修費は年々増加傾向にある。

(3) 収支の状況

指定管理者制度が導入された2006(平成18)年度以降、入館料収入で水族館運営を賄っており、支出は、光熱水費や人件費、委託料等の固定費が大きく占めている。

(2) 入館料改定の経緯

北館開館時に一度改定して以来、消費税増税による改定を除き、20年以上据え置いている。

(4) 基金の状況

名古屋港水族館振興基金を設置し、収支の余剰を積立して展示効果の向上等、水族館の振興に資する経費に充当している。



4. 水族館の機能 (4つの役割)

(1) 種の保存

古賀賞2回受賞
「世界唯一」ナンキョクオキアミの継代繁殖など

(2) 教育・環境教育

学校団体へのレクチャー
ボランティアによる啓発など

(3) 調査・研究

アカウミガメの回遊経路調査など

(4) レクリエーション

「マイワシのトルネード」
「イルカパフォーマンス」など

(第2章) 名古屋港水族館を取り巻く社会動向

1. 国際的な動向

(1) 持続可能な開発目標(SDGs)



(2) 生物多様性戦略

(3) 社会情勢の変化 インバウンドの増加

2. 国内の動向

(1) 多様な人々の行動変容

ノーマライゼーション等の理念の普及
障害者基本法、バリアフリー法の浸透
→車いす利用者に優しく・多様な人が外出

(2) 情報源としてのSNS

スマートフォン・SNSの普及
→移動や消費の情報源に



(第2章) 名古屋港水族館を取り巻く社会動向

3. 世界及び国内の水族館・動物園の動向

(1) WAZAの理念と活動内容

- ・動物にとって生息しやすい環境を確保
- ・水族館と動物園だけが絶滅危惧種の調査研究等の総合的な保全活動に取り組むことができる

(2) JAZAの理念と活動内容

2020(令和2)年、動物種ごとの適切な飼育環境を定義づけ

(3) JAAの理念と活動内容

水生生物の飼育展示・教育研究・保護保全活動を推進

4. 地球を取り巻く環境と名古屋港水族館の使命

(1) 地球環境の状況(温暖化)

近年になるほど温暖化が加速

(3) 地球温暖化による生態系の変化

生態系に大きな影響

(5) 環境保全における本水族館の使命

海洋文化の普及、自然環境の意識高揚を地域や海外へも発信

野生生物保全の大切さ、地球環境保全の大切さを啓発していく役割

(2) 海洋大循環の変化(鈍化)と

南極の環境変化(氷が解ける)

(4) 地球温暖化対策の必要性

暴風雨、災害、食料不足、水不足など、さまざまな脅威への対策の必要性

(第3章) 名古屋港水族館の課題と機能向上の必要性

1. 施設の課題

(1) 老朽化の状況と影響

- ・特定フロア(R-22)を使用する冷却機器
- ・展示水槽からの漏水
- ・水処理設備等の老朽化

(2) 飼育員の職場環境

- ・老朽化した擬岩のはく離・落下(北館2階シャチプール周辺)
- ・狭隘な作業環境(南館バックヤード)



2. 館内環境の課題

(1) 混雑対策

- ・繁忙期等は館内全体が混雑

(3) 利便性の向上

- ・スロープがせまい
- ・多目的トイレが奥にあり、使いにくい
- ・男子トイレの個室が狭く、ベビーチェアを設置できない
- ・授乳室の陳腐化(ニーズに答えられていない)
- ・館内ルートや位置がわかりにくい
- ・案内看板がわかりにくい



(2) 安全対策

- ・ベビーカーや車いす利用者の安全・安心な観覧が困難
- ・観覧通路が袋小路となっており、観覧者が滞留(日本の海工リア)

(4) 飼育生物の環境

- ・現在の動物福祉に配慮した推奨する飼育基準を満たしていないものがある
- ・繁殖研究の成果で飼育数が増加し、飼育面積の確保が不十分(極地ペンギン)

3. 展示の課題

(1) 魅力付加・ニーズへの対応

- ・「ふれあい」「体験」などの参加型水族館
- ・展示生物との距離感を近くしたい

(2) 教育展示の充実

- ・気候変動などの啓発が不十分
- ・デジタル技術による展示が陳腐化

(3) 動物福祉の観点の充実

- ・最新の飼育基準を考慮し、生物が健康で生き生きと暮らせる環境を整え、展示の工夫を行う。

4. 運営の課題

(1) 入館者増加策

(2) 基金の増加策

(3) 多様な主体とつなげる方策

取組について、デジタル技術などで訴求

(4) 地元連携策

- ・県内・市内の観光施設との連携など
- ・ガーデンふ頭再開発との連携
→賑わいや集客向上
- ・地元住民、企業からの賛同

(5) 維持管理の合理化

5. 機能向上の必要性

地球環境保全の
大切さを啓発

地球環境に関する
機運の高まり

魅力的な
施設

基本機能を
持続的に

動物福祉に
配慮

ニーズに
応える

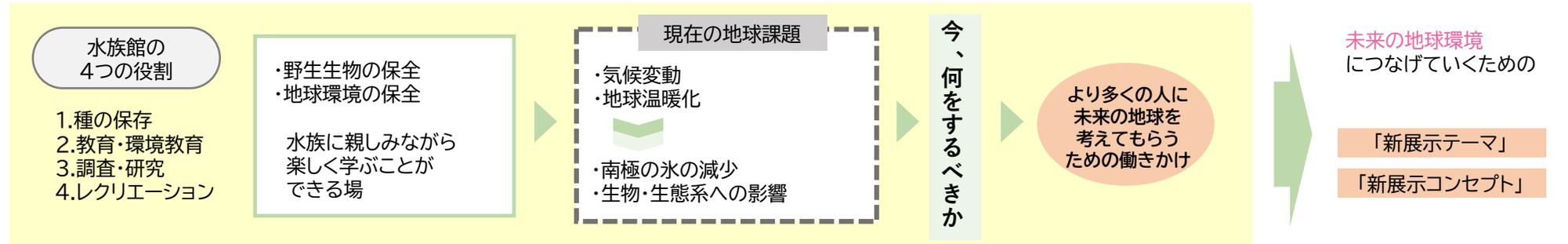
機能向上を行う時期

(第4章) 名古屋港水族館の今後のあり方

1. 新たな展示テーマ・コンセプト

未来の地球環境を守るため、公共の水族館として、今ある施設を活用し、「人にやさしく、生き物にやさしく、そして地球にもやさしく」あるためのテーマ・コンセプトを設定することで、さらなる魅力向上を目指す。

(1) 新たな展示テーマ・コンセプトの背景



(2) 新たな展示テーマ・コンセプト

◆ 新たな展示テーマ:「未来への旅～海でつながる生命、未来へつなげる生命～」

従来南館・北館の展示テーマを残しつつ、未来の地球環境保全を考える新たな全体の展示テーマは「未来への旅」とする。



◆ 新たな展示コンセプト

従来展示コンセプトを残しつつ、地球課題となっている「気候変動」を新たな視点として取り入れて深化させ、自然環境を保全して未来に「つなげる」ことで、私たちの地球環境を守っていく。

2. 機能向上の考え方

(1) 施設の機能のあるべき姿

老朽化した設備・陳腐化した施設を整え直すことが必要な現状である。

→現代のニーズにあった魅力ある施設であり続けるために、「水族館としての基本機能」が持続的なものとして整備されている必要がある。

(2) 環境への配慮

設備機器の新設・更新時には省エネルギー設備機器を導入するなど、環境負荷低減の取組みを進める。

(3) 多様なニーズへの対応

誰もが楽しく学び、居心地のよい水族館とするため、多様な人が利用できる環境を整える。

不足する機能の改善

社会情勢の変化に即した多様なニーズに応える



生物との新たな距離感

動物福祉に配慮し、観覧ニーズに応える



2. 機能向上の考え方

(4) 新たな機能「つなげる」

居心地のよい空間づくりを行い魅力ある施設であり続けて、役割を多様につなげて融合することで新たな気づきと感動のきっかけを創出する。全ての可能性をつなげて融合することで、唯一無二の水族館となり、未来の地球環境を守るための貴重な循環を創出していく。

役割をつなげる

4つの役割をつなげることにより、同じ空間にいる人が思い思いの楽しみ方、学び方、過ごし方ができるようになるなど、相乗効果が期待できる。

- 1 種の保存
- 2 教育・環境教育
- 3 調査研究
- 4 レクリエーション

つなげる

空間をつなげる

居心地のよい空間を作ることにより、くつろぎと気づきを提供



通路や休憩スペースを広くし
食事をしながら観覧できる
空間を創出



水中観覧席の背後の一部を改装し
くつろげる空間を創出



利用頻度の低い
しおかせ広場などを
有効利用

持続的発展の
好循環を生む

心を
つなげる

世界へつなげる

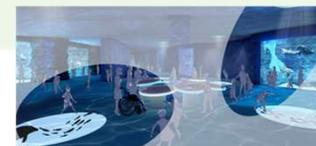
世界規模での調査や種の保存の
取組みなど世界に向けて発信・交流



デジタルでつなげる



デジタル技術を活用して
多様な魅力を発信・交流



デジタル技術で生息環境とつなげて
異空間に身を投じた没入感に浸る

多様な主体とつなげる

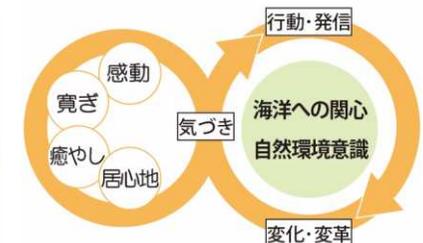
市内・県内に限らず多様な主体と互い
につながり、取り組みを発信し合うこと
で、今までつながり合えなかった人
とつながることができる

ガーデンふ頭にある水族館関連施設
や博物館などつながり、エリアのつ
ながり強化



(5) 環境保全への意識の育み

「見て・触れて・知って・感じて・楽しむ」経験により、新たな気づきや、新たな感動が生まれる。地球環境の大切さを知る学びは、「興味」という知の源泉を経て「環境」についての興味・関心の広がりとなり、人から人へとつながっていく。未来の地球環境を守るための改善策について、より多くの人と一緒に考えていきたい。



1. 各エリアの新たなイメージ

機能向上の考え方で示した、『施設の機能のあるべき姿』、『環境への配慮』、『多様なニーズへの対応』、『新たな機能「つなげる」』、『環境保全への意識の育み』を踏まえ、限られた資源を最大限に活用し、課題解決を行った上でこれらが融合し相乗効果を発揮するような配置計画に向けた、各エリアの新たなイメージを検討する。

(1) エリアごとの課題と課題解決エリアの選定

配置計画に向けては、課題解決を図るべきエリアを以下のとおり選定し、その課題解決をはかりながら、施設全体の魅力を高めていく。

施：施設の課題

館：館内環境の課題

課題解決エリア選定表

エリア	施設の課題 施		館内環境の課題 館				展示の課題	選定エリア
	老朽化 (設備, 施設, 漏水)	職場環境 (作業環境)	混雑緩和	安全対策	利便性向上	飼育環境		
全館	水族館全体		○	○	○		○	●
南館	日本の海	○	○	○	○		○	●
	深海, 赤道の海, カメ回遊, オーストラリアの水辺			○				
	南極エリア(ペンギン展示施設含む)	○	○	○		○	○	●
北館	2階水中観覧席, シャチ・イルカ・バレーガプール	○	○			○	○	●
	一般観覧エリア						○	
屋外	しおかぜ広場					○		

エリアの課題は、各エリアでの解決及び利用頻度の低いエリアを有効利用して解決をはかるとともに、混雑緩和や安全対策などを図るうえで必要とされるスペースを取り入れることとし、生物の生命維持や安定した飼育展示の観点により、特に重要度の高い南極エリア(ペンギン飼育施設含む)から課題の解決を図る。

今後の課題

【南館】南極エリア

- ★ ペンギンの飼育面積が不十分
- ★ 最新の飼育基準への対応必至
- ・ R-22フロン使用設備(熱源)
- ・ 生物用空調設備の老朽化
- ・ 配管凍結・結露で観覧に影響
- ・ 観覧スロープが狭い

館
館
施
施
施
館

【南館】日本の海エリア

- ★ 観覧通路が狭い
- ★ ボトルネックや袋小路がある
- ★ バックヤードのろ過槽や配管など作業環境が危険
- ・ 水処理設備等の老朽化

館
館
施
施

【全館】水族館全体

- ★ 雨天時飲食スペース不足
- ★ 環境教育スペース不足
- ・ トイレや授乳室は、ニーズに合った改善が必要
- ・ わかりやすい館内サインに統一し、多言語対応が必要

館
館
館
館

【北館】水中観覧席, シャチ・イルカ・バレーガプール

- ・ 広いがゆっくり過ぎにくい
- ・ シャチプールで擬岩はく離
- ・ プール漏水

館
施
施

面積確保が必要な課題

★飼育面積の確保

★通路・動線改善

★バックヤード改善

★室内飲食スペースの確保

★環境教育スペースの確保

ゆっくり観覧できる場所の確保

【屋外】しおかぜ広場の有効利用を検討

(2) 各エリアの新たなイメージ

限られた資源を最大限に活用し、空間を多様につなげることにより、課題解決に加え、多様なニーズへの柔軟な対応や、より質の高いサービスの提供の実現を目指した各エリアの新たなイメージを次のように設定する。



飼育展示エリア
飼育生物を展示するエリア。観覧エリアも含む。



飼育作業エリア
飼育生物などのために職員が作業を行うエリア。



繁殖・研究エリア
種の保存等のため、飼育生物を繁殖したり研究したりするエリア。

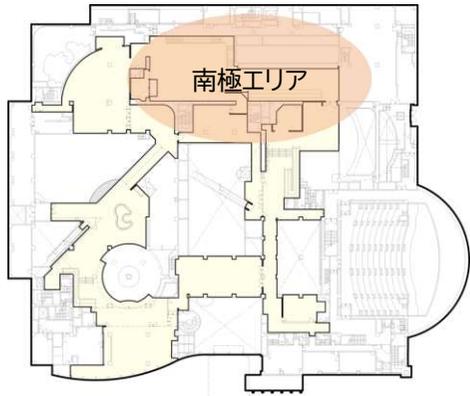


学習・体験エリア
「見て・触れて・知って・感じて・楽しむ」エリア。

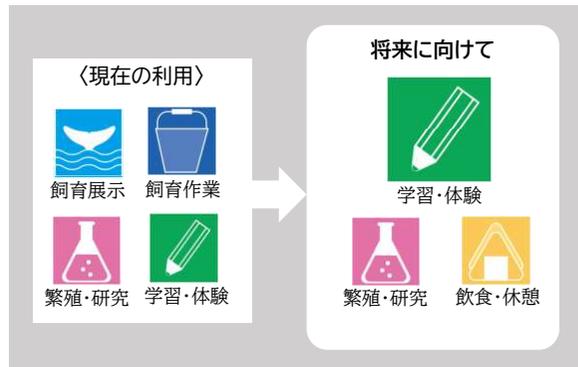


飲食・休憩エリア
飲食や休憩のエリア。軽食等の販売も含む。

① 南館3階 南極エリア



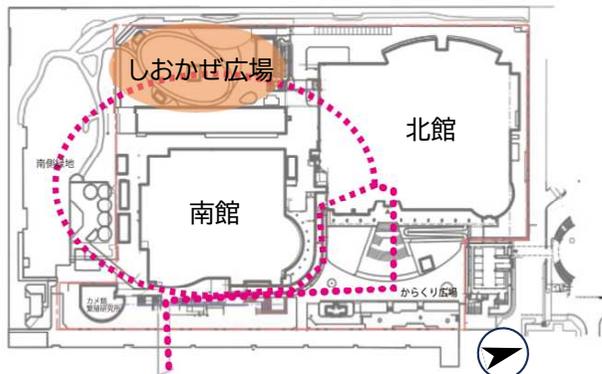
● 観覧動線



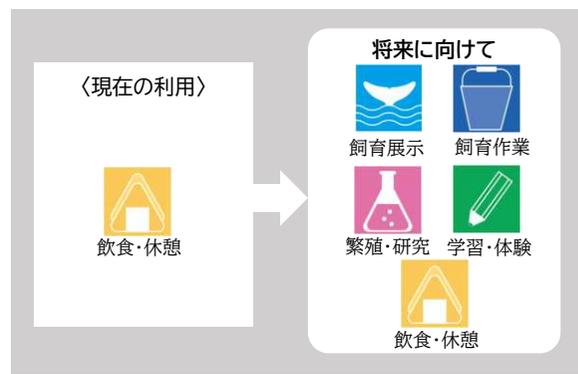
飼育展示機能を移設し、学習体験機能を拡充することで、南極を通じて地球環境を学ぶエリアの充実へ

- 例えば…
- ・南極に関する研究発表
 - ・臨場感をもって誰もが学べる研究所(ラボ)
 - ・気候変動などについて学べる展示・空間

しおかぜ広場の有効利用



ガーデンふ頭全体との回遊性をもたせるための動線



しおかぜ広場の広さを活かし、動物福祉に配慮した新しいペンギン飼育展示、繁殖・研究エリアへ

- 例えば…
- ・飼育作業エリア、バックヤードの展示
 - ・新しい距離感の展示

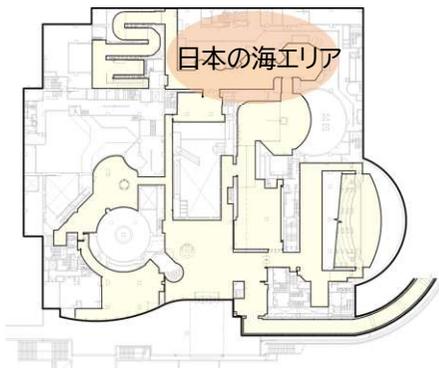
全天候型の、休憩や飲食を楽しむエリアへ

- 例えば…
- ・室内飲食スペースの併設

ガーデンふ頭全体との新しい回遊性となるエリアへ

- 例えば…
- ・しおかぜ広場南側に新たな出入り口の設置
 - ・南極観測船ふじなど、ガーデンふ頭とのつながりを感じられる展示

② 南館2階 日本の海エリア

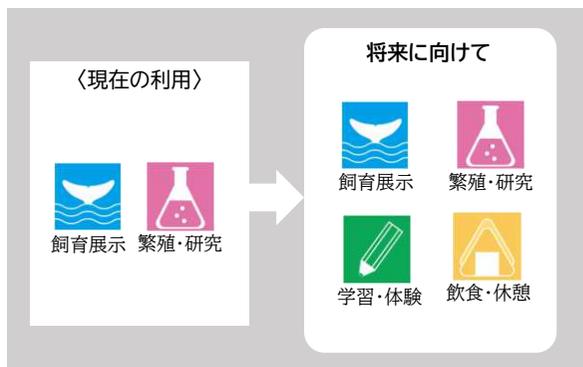
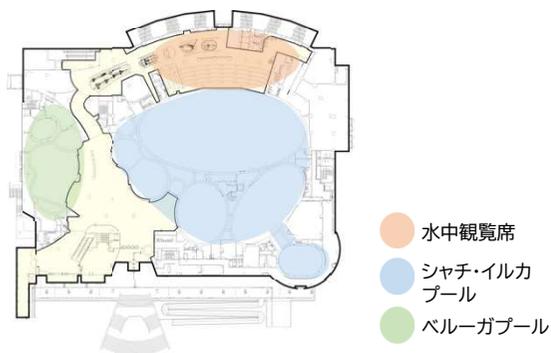


水槽を集約して、より魅力的な新しい日本の海へ

例えば…

- 伊勢湾を始め、日本近海の海をより知ることのできる展示
- 飼育作業環境の改善
- 通路の拡幅や、しおかせ広場を活かした人流分散による混雑の緩和

③ 北館2階 水中観覧席、シャチ・イルカ・ハルゲプール



水中ならではの良さを感じる、くつろぎの空間へ

例えば…

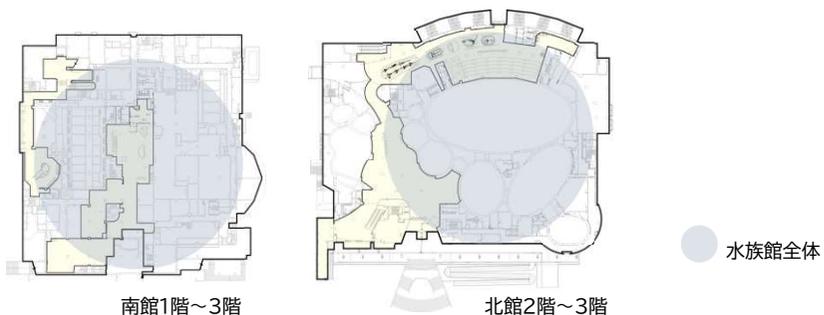
- 休憩空間の併設

生息環境により近づける取組の推進へ

例えば…

- 生息環境により近づけることで、野生本来に近い姿を観覧

④ 水族館全体



誰もが何度でも訪れたいくなる施設へ

例えば…

- ニーズに合った、トイレや授乳室
- わかりやすい館内サインに統一
- 共通基幹設備を一体的に更新
- 室内飲食スペースをしおかせ広場へ新設

※共通基幹設備: 取水排水設備、ろ過循環設備、熱源設備、電気設備等

2. 展示・空間演出

水族館の4つの役割が融合し、相乗効果を発揮するために、海への理解や生き物と人をつなぐ、展示・空間演出を行う。

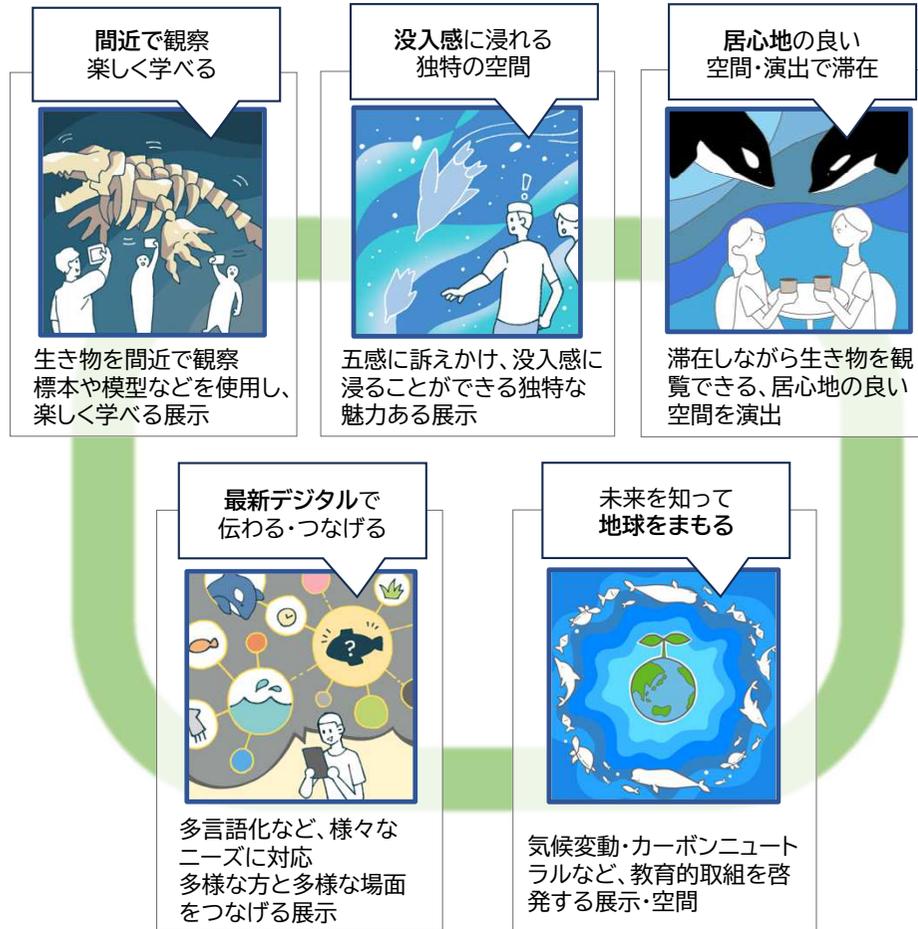
〈展示の課題・ニーズへの対応〉

- ・生物の様々な面を知ることのできる空間
- ・教育的な展示の不足
- ・案内看板・館内ルートがわかりにくい
- ・多言語対応の遅れ
- ・壁の解説が読まれていない

〈魅力の向上〉

既存の施設を活用しつつ、今までにはない多様な展示方法や他にはない独特の観覧方法を実現して、ここにしかない魅力を創出

課題解決等に加え、唯一無二の魅力創出のため、以下の展示・演出を検討する。



3. 機能向上により得られる効果

公共の水族館として、今ある施設を活用し、「やさしい水族館」「滞在型水族館」「つなげる水族館」「親しむ水族館」「楽しく学ぶ水族館」を実現する。

